



## 地域防災における備蓄の基本的考えは

### 自助で7日間耐えつる準備を

#### 問

南海トラフ巨大地震を想定した広域被災の場合、3日から7日の備蓄が必要と耐久期間の延長が発表された。地域防災における町の備蓄に対する考えは。

防災担当副町長

500mlのペットボトル水、長期保存パン千人分、毛布200枚、日用品などを松前公園体育館の備蓄倉庫に保管中。飲料水は、恵久美、北伊予（来年3月完成）の浄水場のタンク水が利用できるようにする。県内全域で物資の調達備蓄調整を行うため、東中南予の3か所に拠点を決め各市町への支援につなげる。各家庭での日常生活中のストックも増量するよう広報していく。

## 昨年9月実施の独居高齢者の実態調査結果は

### 対象者1,280人中支援必要者7人に対応

#### 問

昨年実施した日本郵便株式会社との連携による町内の一人暮らしの高齢者に対する生活状況確認調査の結果は。その後の支援体制と内容は。

健康課長

調査結果により支援が必要と思われる7人中5人については、独居高齢者見守り推進委員の支援を続行し、高齢者のニーズの発見からサービスの提供へと結びつけていく。2回目の調査で28人が生活の不安や相談したい旨の回答を寄せていたが大半は、地域包括センターや介護支援センターの支援があることが判明。今後は定期的訪問や生活支援の検討も行う。